

第3学年 音楽科学習指導案

指導者 照井政裕

1. 題材名 「つくって ひびかせよう！ イメージした音を!!」
～ おひさま学年 オリジナル・サウンド ～

[教材]・物語 [森のお店屋さん] (作：林原玉枝) から「きつつきの商売」
・「おかしなすきなまほう使い」 作詞：秋葉てる代 / 作曲：大熊崇子

2. 題材の目標

- (1) 「森の中に響く音」や「魔法をかける音」のイメージを深め、イメージに合った音を探したりして即興的に表現することができるようにする。
- (2) 楽器の音色や身の回りの物の音、及び、自分達の声など、いろいろな音の特徴や音色の違いを感じ取って、その組み合わせを楽しむことができるようにする。

3. 子供と題材

- (1) 子供の実態 (31名 / 男8名・女23名)

子供達の音楽の授業に対する意識を把握するためにアンケート(「大曲仙北音楽教育研究会」作成)調査を行った。下表のような結果が得られた。(抜粋)

半数以上は音楽を「大好き」「好き」と思っているが、「好きでない」「嫌い」と思っている子供も全体の四分の一に上った。男児の多くと女児の一部の子供達は、自ら「音楽はあまり好きじゃない。」「楽器は好きだけど、歌は嫌い。」等と伝えてきていたので、おおよその傾向をつかんではいたが改めて[負の捉え]が[全体の四分の一]という数字に、指導の手立ての必要性を感じている。

とは言え、学級の子供達の全体的な雰囲気は悪くはない。授業に喜々とした表情で臨む子供が多く、歌声も元気で張りがあり、楽曲の雰囲気に浸って歌う子供の姿も見られる。歌声や音色に対する感覚によいものをもつ子供も多いと感じている。音楽好きな子供達が主にリードし醸し出している、こうした授業風土は引き続き大切にしつつ、アンケートで「好きではない」「嫌い」と答えた子供達への支援の手立ても十分心がけたい。

学習経験では、昨年度はリズムをつくって楽しんだり、虫の音に合う音を集めて演奏に取り入れたりする活動をした。【前担任より】これら「自分達でつくって楽しむ」経験や「音色を楽しむ」経験をもとに、「自分達のイメージに合わせて表現する」活動や「音色に耳を傾ける」活動にも、比較的スムーズに、意欲をもって取り組めるものと思っている。

	大 好 き	好 き	好きじゃない	き ら い
音楽の授業	17(男0/女17)	6(男3/女3)	4(男2/女2)	4(男3/女1)
・歌うこと	15(0/15)	6(1/5)	5(3/2)	5(4/1)
・演奏すること	16(1/15)	4(1/3)	5(3/2)	6(2/4)
・鑑賞すること	19(1/18)	7(5/2)	2(1/1)	3(1/2)
・音をつくること	15(1/14)	6(2/4)	3(2/1)	7(3/4)

(2) 題材について

本題材は、内容 A 表現(4)イの「即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しむこと」に関する学習である。

子供達は諸々の音に囲まれて生活している。しかし、普段はそれらを何気なく聞いているだけであろう。本題材では、音と素材に着目させ、音色の聴き取りの体験にも重点を置く。このことは音への感覚を育むという点で重要なことであると考えられる。

本題材では、教材として「きつつきの商売」と「おかしのすきなまほう使い」を扱う。これらは、子供が[イメージによる自由な音づくり体験]を楽しむ際に有効であると捉える。自分達のイメージする音が自分達の手で再現される体験をすることは、創作への心情を培うと同時に、音色や音楽への興味を強くするきっかけになるのではないかと考えている。

尚、本題材では、子供達に 楽器・身の回りの物・自分達の声 による音を扱わせることにしたい。自然音・環境音・電子音 等は扱わない。

(3) 指導にあたって

前半では、国語教材「きつつきの商売」に登場する音を自分達のイメージに合わせてつくる学習を、全員で取り組ませたい。「きつつきの商売」は、森の中で「おとや」を開店させたきつつきが、お客である森の生き物たちに素敵な音を提供する話で、子供達は音読に大変意欲的に取り組んだ。全員が共通のイメージ世界をもっている点で、格好の学習テーマの材料になると考えた。そのイメージ世界に響く音を、みんなでアイデアを出し合いながら、実際の響きにつくり上げていく学習は、物語の世界(国語学習)と音の響きの世界(音楽学習)を、相乗的に豊かなものにしていくのではないかと考えている。

尚、全員で取り組むことには、グループ学習の進め方指導という教師側の意図も含んでいる。

後半では、教材曲「おかしのすきなまほう使い」を使った表現活動を中心に学習を進める。歌に合わせて(歌の合間に)ナレーションを入れたり、音をつくって表現したりする。前半は 物語中の擬音語からイメージをふくらませるのに対して、後半の活動は楽曲の歌詞の内容やふしの雰囲気からイメージをふくらませることになる。より多様なイメージが浮かぶであろうことから、子供達相互の学び合いも豊かになると期待している。

前半同様、全員でイメージを語り合ったり試してみたりしながら、徐々に分担を決めグループで練り合う活動へとつなげていきたい。

4. 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
創作				
鑑賞				
題材の評価規準	音の特徴に関心を持ち、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	音色や響きの違いを感じ取って、イメージに合った音の出し方や組み合わせ方を工夫している。	楽器や身の回りの物を使って、イメージを生かした表現をすることができる。	楽器等の音色の違いや美しさを感じ取りながら聴くことができる。

5. 全体計画（総時数 5 時間 本時 4 / 5）

[下表における評価の観点：(ア)「音楽への関心・意欲・態度」(イ)「音楽的な感受や表現の工夫」(ウ)「表現の技能」(エ)「鑑賞の能力」]

時間	主な学習活動	学習活動における 評価規準【評価方法】	十分満足できると 判断する視点	努力を要する子供への 手立て
1	「きつつきの商売」の、 1の場面に合う音を探して 鳴らしたり、音の出し 方を工夫したりする。	・題材のねらいをつ かみ、進んで楽器の 音色や響きを聴いて 音を探そうとしている。 (ア) 【活動の様子観察】	進んで音を鳴らそ うとしたり、意見を 述べたり、真剣に聴 いたりしている。	2年生での虫の声 さがしを想起させ、 活動に慣れ親しめる よう一緒に考える。
2	「きつつきの商売」の、 2の場面に合う音を探して 鳴らしたり、音の出し 方を工夫したりする。 みんなで表現の工夫につ いて話し合ったり試した りする。	・自分達のイメージ に合った[森の中の 雨の音]を工夫して いる。(イ) 【活動の様子観察】	音の出し方や組み 合わせ方を工夫して いる。	友達の考えによる 工夫を体験させたり しながら学習方法に 慣れさせたり、励ま しを与えたりする。
3	「おかしなすきなまほう 使い」を、様子を思い浮 かべながら歌う。 [まほうをかける音]の イメージを話し合い、 みんなでイメージした音 に合う音色を探す。	・進んで歌ったり、 意欲的にイメージに ついての考えを述べ たりしている。(イ) ・音の響きを確かめ ながら聴いたり、鳴 らし方を工夫したり している。(イ)(エ) 【活動の様子観察】 【学習シート】	いろいろな音を試 したり、何度も音を 出して響きを比べた りしている。	一緒に音探しをし たり、こちらから相 談にのっていたり する。
4 本 時	それぞれが見つけた[ま ほうをかける音]を発表 し合い、音色を組み合わ せるなど表現の工夫をす る。 「おかしなすきなまほう 使い」の曲を全体を通し て歌ってみる。	・音色や響きを聴き 音の組み合わせやそ のタイミング、強弱、 長さ、高さ、などを 工夫している。 (イ)(ウ) 【活動の様子観察】	音色に耳を傾けて 聴き、全体としての 工夫について進んで 考えを述べている。	工夫前と工夫後の 演奏について感想を 聞くなど、表現・響 きの違いに着目させ る手立てをとる。
5	グループごとに、自分達 の[まほうをかける音] の練習をする。 「おかしなすきなまほう 使い」の曲を全体を通し て歌って楽しむ。(録音)	・自分の担当する音 を、イメージを生か して表現している。 (イ)(ウ) 【演奏の様子観察】	グループの音色や その響きにも気を配 り、イメージに合う 演奏をしようと声を かけたりしている。	そばで演奏のタイ ミングを示してあげ る等、表現活動への 支援をするとともに 上手にいった時には ほめて励ますように する。

6. 本時の実際 (4 / 5)

(1) ねらい

それぞれが見つけたイメージに合う音の音色や響きを聴き、組み合わせ方やタイミングなどを工夫して表現することができる。

(2) 学習過程

主な学習活動	教師の支援	評価規準
<p>1. 「おかしなすきなまほう使い」を歌う。</p> <p>2. 本時のめあてを確かめる。</p>	<p>・子供達と一緒に歌いながらも、子供達の表情や調子を観察し、やわらかな雰囲気をつくるようにする。</p>	
<p>音をくみあわせて [まほうをかける音] をかんせいさせよう。</p>		
<p>3. 「かぼちゃグループ」・「いちごグループ」のそれぞれのメンバーが集めた音を紹介し合う。</p> <p>4. 全員で、「かぼちゃ」「いちご」それぞれの音の組み合わせの工夫を考える。</p> <p>5. 「おかしなすきなまほう使い」を通して演奏する。</p>	<p>・子供が探した楽器などの絵を予め準備しておき 紹介に合わせて黒板に貼付する。</p> <p>・音の出し方で、その場で改善できることについてはその場でアドバイスする。</p> <p>・実際に、何度も音を出して試しながら、工夫に関する意見の適否を判断させるようにする。</p> <p>・表現がうまくいかない(音がよく出ない、タイミングが合わない等)といった子供にはそばで手伝う等の配慮をする。 事前に練習は次時に行うことを伝えておき、表現の巧拙への抵抗感を取り除いておく。</p> <p>・この活動にかける時間は、あまり長くないようにする。最終的な工夫の決定はそれぞれの担当グループに任せることを確認する。</p> <p>・子供から出た考えを、タイミング、強弱、音の高さ、長さ、スピード、等の要素に着目した言葉で整理し、模造紙に簡単な図形楽譜で示したい。</p> <p>・本時のふり返りと、次時のめあてをみつけることが目的であることを確認する。</p>	<p>・音色や響きを聴き、音の組み合わせやそのタイミング、強弱、長さ、高さ、などを工夫している。(イ)(ウ)</p> <p>【活動の様子観察】</p> <p>十分満足できると判断する視点</p> <p>・音色に耳を傾けて聴き全体としての工夫について進んで考えを述べている。</p> <p>努力を要する 子供への手立て</p> <p>・工夫前と工夫後の演奏について感想を聞くなど、表現・響きの違いに着目させる手立てをとる。</p>